

2 確かな学力の向上

(1) 教育内容の充実

① 少人数学級・少人数指導の充実

■ 少人数学級・少人数指導

子ども一人一人の個性に応じたきめ細かな指導を行うため、少人数学級や少人数指導を実施している。

○ 具体的な取組

(ア) 少人数学級

- 1学級の子どもの数の上限を40人より少なくする少人数学級を実施する。
※小学校1年生の学級編制の標準を35人に引き下げ、35人以下学級を推進すること等の法律が改正され、平成23年度より全国的に実施されている。)

35人学級の導入時期

| 学年 | 導入時期 |
|-------|--------|
| 小学校1年 | 平成15年度 |
| 小学校2年 | 平成16年度 |
| 小学校3年 | 平成18年度 |
| 小学校4年 | 平成19年度 |
| 中学校1年 | 平成21年度 |

- 平成15年度から35人学級（1学級の子どもの数の上限が35人）を段階的に導入し、現在では、小学校1～4年生と中学校1年生の全学級で35人学級を実施している。
※小学校1・2年については、県下全小学校で35人学級を実施

(イ) 少人数指導

- 1つの学級の授業を複数の教師が行ったり、1つの学級を複数に分けて各々の教師が授業を行ったりする。

(ウ) 教師の指導法の研究・共有化

- 少人数のよさである「時間・空間・仲間」を効果的に生かした、少人数指導における指導法の研究に取り組み、共有化を図る。
- 少人数学級・少人数指導に関する特別研究員による公開授業を実施する（各区1回、計5回）。また、少人数学級・少人数指導に関する効果の調査・分析を行う。
- 研究指定校による研究発表会を行い、共有化を図る。（H24～25中学校1校 H25～26小学校1校）。
- 研修では夕方からのトワイライト研修を実施したり、校内研修を支援するために指導主事が学校に出向いて行うパッケージ研修を実施したりするなど、教員が参加しやすい形を工夫している。
- 広報紙やホームページの動画配信等を通して、一人一人を大切にした授業のポイント等の共有化を図る。

○ 今後の方向性

少人数学級や少人数指導の効果を上げるために、これまでの成果と課題を踏まえ、指導法の共有化等を行い、教員の指導力向上を図る。

■ 「学びノート」の活用と「学びノート教室」の開催

平成14年度から実施された学習指導要領を受け、本市では、平成16年度より基礎学力の充実を図るために、ぜひ身に付けてほしい基礎・基本の問題集「学びノート」を作成している。

平成20年3月に告示された学習指導要領においても、児童生徒に「生きる力」を育成するという基本理念を大切にしながら、知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等をバランスよく育んでいくことが重視されており、基礎学力の充実に役立てるために学びノートの改訂を重ねている。(平成23年度に小学校、平成24年度に中学校を全面改訂。)

「学びノート」には、子どもたちに習得させたい基本的な問題を多数掲載するとともに、答えや解説も掲載しており、授業でも、自学自習でも活用することができるようになっている。特に小学校の国語・算数については、学びノートを印刷製本し、全児童に1冊ずつ配布して、基礎・基本の充実のために活用しやすくしている。なお、中学校には、今までのDVDに加え、学校に冊子を1冊ずつ配布し、活用の向上に努めている。

平成18年度からは、全小学校において、放課後の時間を活用し、3年生以上の希望者を対象とした「学びノート教室」を開催している。各小中学校に学びノート教室サポーターを配置し、「学びノート」の活用を通して、学ぶ意欲の向上や学びの習慣化を目指し、子どもたちの基礎学力の定着を図るようにしている。

② 言語活動の充実

思考力・判断力・表現力を育成するために、国語科だけでなく、各教科等において言語活動を充実させ、言語能力の向上に努める。

そのために、次のような視点にたち、具体的な取り組みを進めていく。

- ・ 伝え合うことを通じて学び合い、高め合うことができる学習活動の設定
- ・ 言語活動の基礎となる能力の育成を重視した国語科授業の推進
- ・ 各教科等における教科目標達成のための手段としての言語活動の位置付けと、指導の充実のための年間指導計画の作成
- ・ 学校生活全体における言語環境の整備
- ・ 学校、家庭、地域を通じた読書活動の推進と読書習慣の確立
- ・ 情報センターとしての学校図書館の充実と授業における積極的な活用

③ 理数教育の充実

理科や算数・数学などを学ぶことの意義や楽しさを実感させ、基礎的・基本的な学習内容の習得と、思考力・判断力・表現力等を育てるための活用に向けて、授業等の改善に努める。

そのために、次のような視点で具体的な取組を進めていく。

- ・ 導入から結果・考察、まとめまで、子どもの思考がつながる授業の推進
- ・ 観察・実験等の体験的な活動の充実による、わかる授業の推進
- ・ 比較や分類、関連付けといった考えるための技法、帰納的な考え方や演繹的な考え方などを活用して説明する。
- ・ 仮説を立てて、観察を行い、その結果を考察し、まとめ表現する。
- ・ 「ものづくり」を通したり、「日常生活」と関連させたりする授業の推進
- ・ 理科実験事故防止講習会等の研修の充実（熊本大学教育学部との連携等）

④ 学力向上支援員派遣事業

児童一人一人の基礎的・基本的な学習内容の定着を図るために、学力向上支援員を派遣し、本市小学生の学力向上をめざす。

○ 取組内容

本年度、小学校16校の3、4年生の算数の授業に、3人の退職教員を「学力向上支援員」として派遣し、授業等に参加し、児童一人一人を直接支援していく。



○ 主な支援内容

- ・授業における児童への学習支援
- ・学習習慣等の課題検証
- ・学級及び学年の学力向上策支援

(2) 学校図書館の充実

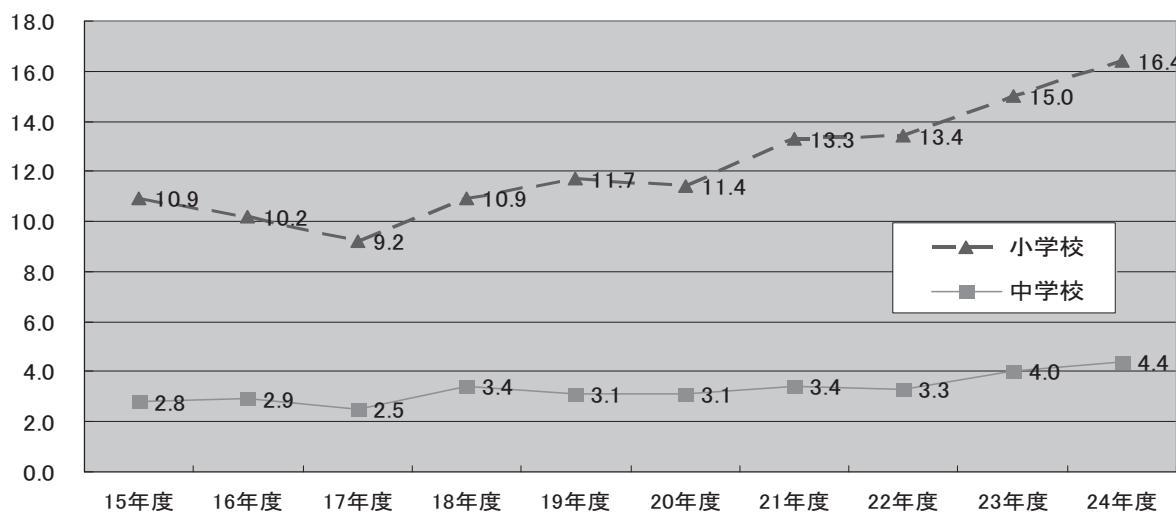
① 学校図書館の効果的な活用

■ 学校図書館司書業務補助員配置

学校図書館の機能の充実と円滑な運営を期するため、図書館主任や司書教諭の補助として、図書館業務にあたる司書業務補助員を、平成12年度から市立全小・中学校に配置している。

冊数

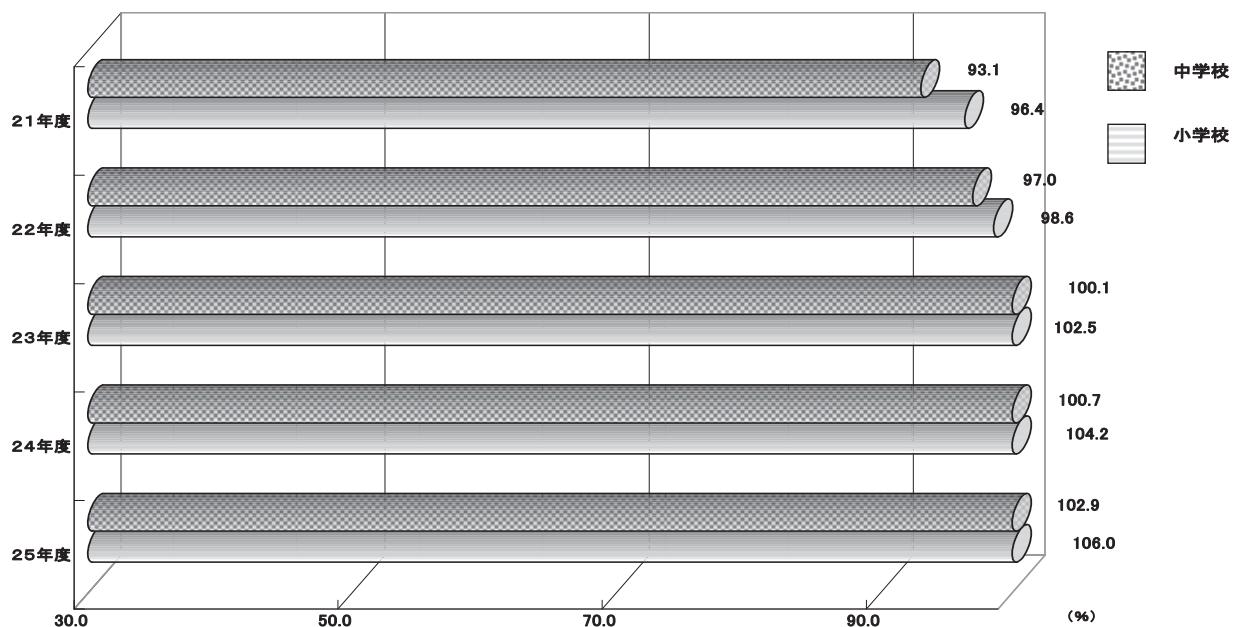
4月～6月における1人あたりの館外貸出冊数



■ 蔵書購入

文部科学省が定める「学校図書館図書標準」に基づき、全校が100%を達成するよう蔵書の充実を図っている。(図書購入費：小学校1校あたり平均32万円、中学校1校あたり平均50万円)

学校図書館図書標準冊数に対する整備率の推移



② 学校図書館支援センター推進事業

庁内関係部署との連携のもと、学校図書館支援センターを中心にして、蔵書データベースと情報ネットワークの管理、図書物流システムの運営など、学校図書館や市立図書館・公民館図書室の図書を活用した授業支援や読書活動を推進している。

のことにより、学校や家庭における子どもの読書活動を支援し、子ども達が本に触れ、本に親しむ機会を創出している。

(これまでの主な実績)

| | |
|-----------|--------------------------------|
| 平成13年度 | 学校図書館蔵書のデータベース化、図書の検索・貸出の電算化 |
| 平成14年度 | 学校図書館及び市立図書館・公民館図書室の共通利用カードの発行 |
| 平成14・15年度 | 研究実践協力校43校による図書資料の流通試行 |
| 平成14～16年度 | 「物語定期便」用図書の購入 |
| 平成16年度 | 市内全小中学校117校における図書資料の流通開始 |
| 平成16年度～ | 調べ学習フェスタ（平成21年度より調べ学習コンクール）の実施 |
| 平成17年度 | 読書活動ホームページの開設 |
| 平成18年度 | 学校図書館支援センターの開設 |
| 平成20年度 | 学校図書館支援センター事務局を市立図書館に移行 |
| 平成21年度～ | おすすめ図書ガイドブック「としょかんへおいでよ」の作成と配布 |
| 平成23年度～ | 新しくなった「物語定期便」の学校間巡回開始 |

(主な事業)

・「物語定期便」

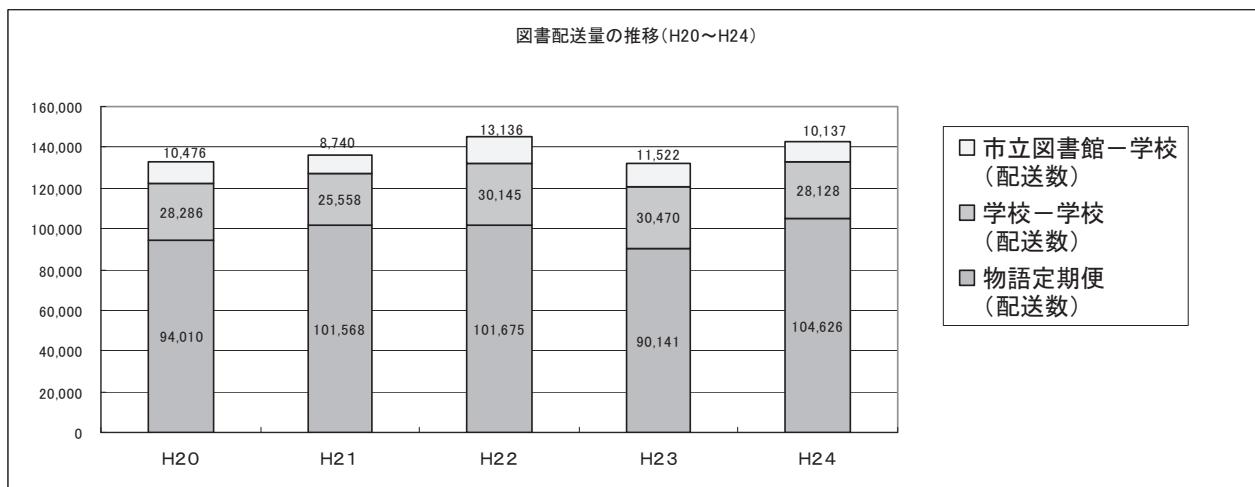
市立図書館が管理する、1セット120冊の物語図書等を「物語定期便」として各学期内に4週間に1回の周期で各学校に貸し出している。

なお、長年の使用に伴い、平成22年度に各学校の学校図書館司書業務補助員等が選書を行い、物語定期便用図書の買い替えを行った。

・「リクエスト便」

調べ学習用の図書や物語図書等を児童生徒、教職員のリクエストに応じて、他校や市立図書館・公民館図書室から貸借するしくみのことで、書名を決めて依頼する「書名リクエスト」と、単元やテーマ等により依頼する「テーマリクエスト」の2種類の依頼方法を実施している。

このほか、「特別支援学級セット」、「郷土資料セット」といったパッケージ化した図書資料のセットのリクエストも受け付けている。



(3) 国際教育の推進

国際社会に生きる日本人を育成するために、外国語活動の充実を図りながら、自国の伝統や文化を学ぶとともに、英語等の外国語の基礎やコミュニケーション能力を身に付け、異文化交流体験等を通じて相互の社会や文化・歴史等に対する理解を深める。

■ 英語指導者招致事業

(財)自治体国際化協会による外国青年招致事業計画にそって、昭和63年度から外国語指導助手(A.L.T.)を招致しており、中学校・高校において日本人英語教員とのチームティーチングによる英語指導に当たっている。

また、小学校においても、外国語活動や総合的な学習の時間における国際理解教育の一環として、積極的に英語とかかわる活動を取り入れ、平成19年度からは全小学校にA.L.T.を派遣している。なお、旧城南町の小学校においては地域人材活用による外国語指導助手を2名配置している。

A.L.T.の配置状況

| 年 度 | 小学校 | 中学校 | 高 校 | 地域人材 | 合 計 |
|--------|-----|-----|-----|------|-----|
| 平成21年度 | 24人 | | 1人 | | 25人 |
| 平成22年度 | 28人 | | 1人 | 2人 | 31人 |
| 平成23年度 | 28人 | | 1人 | 2人 | 31人 |
| 平成24年度 | 28人 | | 1人 | 2人 | 31人 |
| 平成25年度 | 28人 | | 1人 | 2人 | 31人 |

■ 日本語指導

外国人児童生徒等にセンター校(黒髪小学校、桜山中学校)での指導を中心とした日本語の指導並びに学習指導、生活適応指導等を行い、小学校・中学校における外国人児童生徒等の教育の充実

に努めている。

日本語指導を受けた児童生徒数

| 年 度 | 小学校 | 中学校 | 合 計 |
|------------|-----|-----|-----|
| 平成21年度 | 25人 | 16人 | 41人 |
| 平成22年度 | 30人 | 17人 | 47人 |
| 平成23年度 | 27人 | 19人 | 46人 |
| 平成24年度 | 33人 | 13人 | 46人 |
| 平成25年度（5月） | 33人 | 11人 | 44人 |

■ 外国語教育の充実

- ・ 小学校段階における外国語活動の推進
- ・ 全小学校への熊本市版英単語絵カードの配布
- ・ 全5・6年担任へのクラスルームイングリッシュCDの配布
- ・ 全5・6年担任へALTによるニュースレターの毎月配布
- ・ 全中学校へのデジタル教科書の導入と活用
- ・ ブラッシュアップイングリッシュセミナーの実施
- ・ 熊本市スピーチテストの開発と全中学校英語教員へのスピーチテストマニュアルの配布
- ・ ALTの効果的活用（サマーイングリッシュクラス、教職員研修、ALT複数派遣による中学校スピーチテストの実施、ALTプロジェクトマネージャーの設置）
- ・ 外国語教育推進委員会の開設
- ・ 国際交流員、地域人材の活用、国際交流関係諸団体との連携
- ・ 異文化交流体験の推進
- ・ 英語等の外国語の基礎や実践的コミュニケーション能力の育成

(4) 教育の情報化の推進

学校にコンピュータやインターネット等が使えるICT環境を整備するとともに、熊本市地域教育情報ネットワークシステム（通称：e-net）を活用して、教育の情報化を進めている。

また特に、ICT（情報通信技術）活用による「わかる授業」を目指し、「かわる」をキーワードにして、「授業がかわる」「子どもがかわる」「学校がかわる」の3つの側面から教育の情報化に取り組んでいる。

- ・ 授業がかわる（ICTを活用した「わかる授業」の実現、ICTで築く確かな学力）教員のICT活用指導力の向上を図り、創意工夫した質の高い授業を実現する。
- ・ 子どもがかわる（情報活用能力・情報モラルの育成）

信頼性のある情報、必要な情報を収集し、判断して活用できる能力を育てる。

学校と家庭が連携・協力して、情報モラル教育を推進する。

- ・ 学校がかわる（校務の情報化、学校と家庭・地域との連携等）

各学校ホームページを活用し、学校の情報を家庭や地域等に発信する。

個人情報保護のためのセキュリティ対策を行い、校務の効率化のために情報化を推進する。

① 整備方針

平成10年度から平成14年度の5年間で、国庫補助制度等を活用し、小中学校のコンピュータ室及び機器の整備を行い、平成14年度から授業におけるコンピュータ機器の活用を本格化している。

これに併せて、平成14年度から平成16年度までの3ヵ年で全小中学校に校内LANの整備を進

め、電源の確保に伴う改修工事等を行うとともに、教材提示用のコンピュータ及びプロジェクタを配備した。なお、コンピュータ機器については、整備計画に基づき更新を行っている。

ア 教育センター：熊本市地域教育情報ネットワークの中心施設として整備

各種サーバ設置、ICT研修室整備、ヘルプデスクサポート

イ 学校 小学校：コンピュータ室20台、図書室2台、職員室1台、校内LAN構築

(電子黒板を1台、デジタルテレビを3学級に1台配置、プロジェクタを3学級に1台配置。職員室LAN構築。特別支援学級を設置する学校に1台パソコン配置。教員用パソコン一人1台の配備)

中学校：コンピュータ室40台、図書室2台、職員室1台、校内LAN構築

(パソコンを通常学級に各1台、電子黒板を1台、デジタルテレビを3学級に1台配置、プロジェクタを3学級に1台配置。職員室LAN構築。特別支援学級を設置する学校に1台パソコン配置。教員用パソコン一人1台の配備)

② 熊本市地域教育情報ネットワークシステムにおける主な提供システム

ア 教材及び教育情報等の配信システム

- ・教育センターホームページのリニューアルによる教育情報提供システムの改善
- ・「わかる授業」のためのデジタル教材開発及び提供
- ・「情報モラルの授業」「わたしたちの熊本」をはじめ、役に立つ教育情報の提供
- ・「先生チャンネル」などの動画による、OJTに役立つ資料の提供

イ 図書管理・検索システム

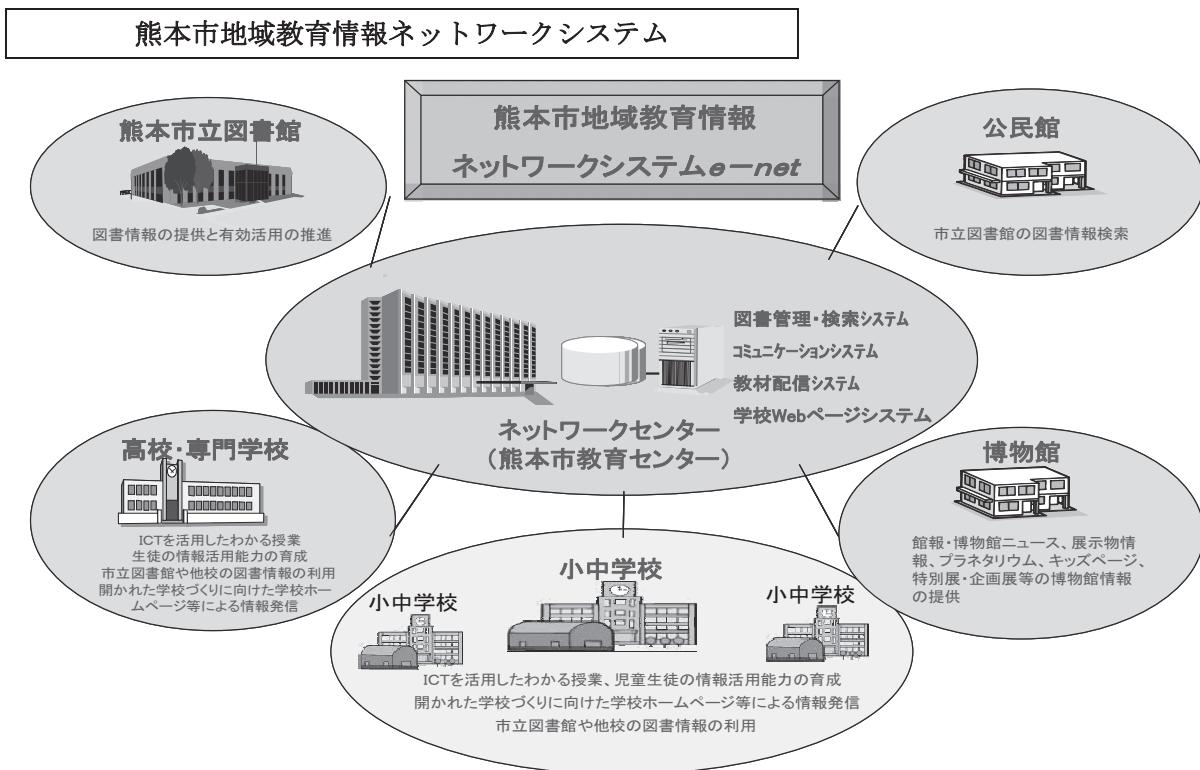
- ・学校図書館の蔵書情報の一元管理及び学校間における図書の有効活用の推進
- ・各学校図書のバーコードによる貸出、返却システム導入による省力化の推進

ウ 学校Webページシステム

- ・開かれた学校づくりとしてのさまざまな学校情報の提供
- ・校長の決裁による即時更新システム

エ ゆうネットシステム、e-netメール

- ・グループウェアによる学校内外との情報の共有化の推進
- ・電子メールによる校務の効率化の推進



③ 教員のスキルアップ、サポートの充実

ア 研修の充実：ICTを活用した「わかる授業」の実現

(研修概要)

- ・ 新転採管理職教育の情報化研修（新・転採校長、教頭）
- ・ 情報教育担当者研修（各校 1 人）
- ・ ICT を活用した授業づくり研修（各校 1 人または 2 人 1 日講座）
- ・ 教育の情報化セミナーによる研修（各校 1 人または 2 人 1 日講座）
- ・ ICT 活用研修（希望者） 4 講座
- ・ トワイライト研修（教科指導における ICT 活用、児童生徒の情報活用能力の育成） 10 講座 11 日
- ・ 小・中・高等学校の保護者対象へのネットトラブルの現状と対策研修（1 講座）
- ・ パッケージ研修による ICT 活用の校内研修支援

イ 研究・開発の充実：ICTを活用した授業づくり、児童生徒の情報活用能力の育成

(研究概要)

- ・ 地域教育情報ネットワークシステムの冗長化
- ・ 「わかる授業」のためのデジタル教材開発
- ・ 教育情報提供システムの開発（動画番組「先生ちゃんねる」「情報モラルの授業」等）
- ・ 情報モラル教育カリキュラム開発と推進
- ・ 研究指定校（ICT 活用）による研究
- ・ 研修プログラムの研究開発

「ICT を活用した授業づくり研修開発」

「児童生徒の情報活用能力育成のための研修開発」

ウ サポート体制の充実：「わかる授業」の実現のためのヘルプデスク等支援の充実

(支援概要)

*ヘルプデスク（10人）学校担当及び教材作成担当制

- ・授業支援
- ・校内研修支援
- ・校内 LAN 活用支援
- ・ネットワーク管理
- ・電話等問い合わせ支援、障害・トラブルへの出前対応
- ・授業用デジタル教材作成
- ・指導案のデータベース化等校務の ICT 化支援

学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果(平成24年3月現在)

コンピュータ整備の実態等

| | 教育用コンピュータ1台当たり児童生徒数 | | | | 普通教室のLAN整備率 | | | |
|------|---------------------|------|-----|------|-------------|-------|-------|------|
| | 合計 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 合計 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
| 全国平均 | 6.6 | 7.5 | 6.5 | 5.1 | 83.6 | 81.5 | 80.7 | 93.6 |
| 熊本県 | 5.7 | 7.4 | 5.6 | 3.8 | 90.7 | 90.3 | 88.9 | 94.8 |
| 熊本市 | 12.4 | 18.5 | 8.0 | 4.5 | 98.7 | 100.0 | 100.0 | 35.7 |

教員のICT活用指導力の状況

| | A 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力 | | | | B 授業中にICTを活用して指導する能力 | | | | C 児童・生徒のICT活用を指導する能力 | | | |
|------|------------------------------|------|------|------|----------------------|------|------|------|----------------------|------|------|------|
| | 合計 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 合計 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 合計 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
| 全国平均 | 78.1 | 78.8 | 75.9 | 80.0 | 65.1 | 67.4 | 60.8 | 66.1 | 62.8 | 66.0 | 57.9 | 64.5 |
| 熊本県 | 81.1 | 82.8 | 79.0 | 80.2 | 69.7 | 72.9 | 65.8 | 68.1 | 63.8 | 67.0 | 58.7 | 65.3 |
| 熊本市 | 81.4 | 83.1 | 78.7 | 76.8 | 70.7 | 74.3 | 65.3 | 58.1 | 63.3 | 66.2 | 58.6 | 60.5 |

| | D 情報モラルなどを指導する能力 | | | | E 校務にICTを活用する能力 | | | |
|------|------------------|------|------|------|-----------------|------|------|------|
| | 合計 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 合計 | 小学校 | 中学校 | 高等学校 |
| 全国平均 | 73.3 | 76.4 | 70.2 | 74.4 | 74.2 | 73.7 | 72.6 | 78.6 |
| 熊本県 | 76.1 | 79.8 | 73.2 | 75.2 | 74.4 | 74.9 | 71.5 | 78.2 |
| 熊本市 | 77.4 | 79.9 | 72.9 | 78.3 | 72.9 | 74.3 | 70.1 | 77.6 |

(5) 教職員研修の充実

広い視野と使命感、専門的知識や能力をもった教職員を育成し、指導力の向上を図るために、教職員の研修の場と機会を確保するとともに研修内容の充実を図る。

熊本市教職員研修の体系

H 25. 4月現在



(on the

学校現場で、実際の業務を通じ
修得させる研修

Off-JT

(off the job training)

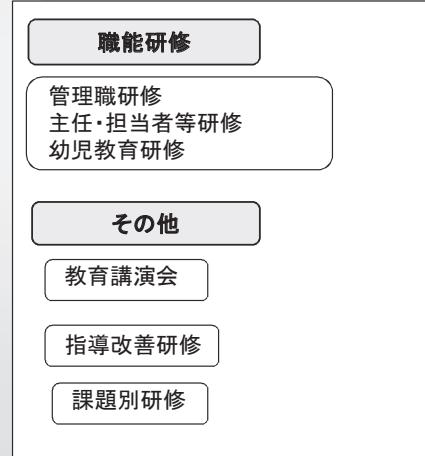
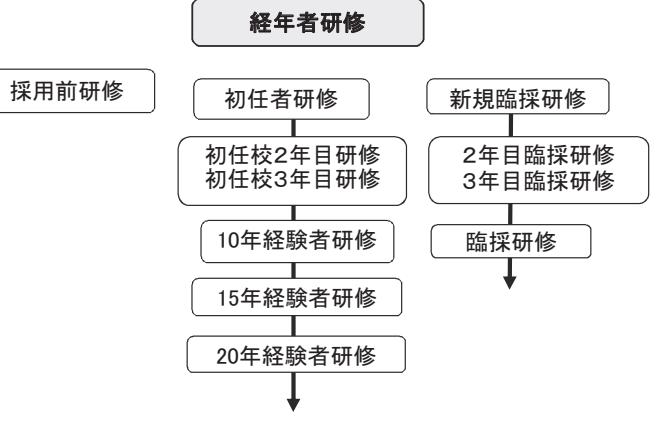
教育委員会における学校外の研修

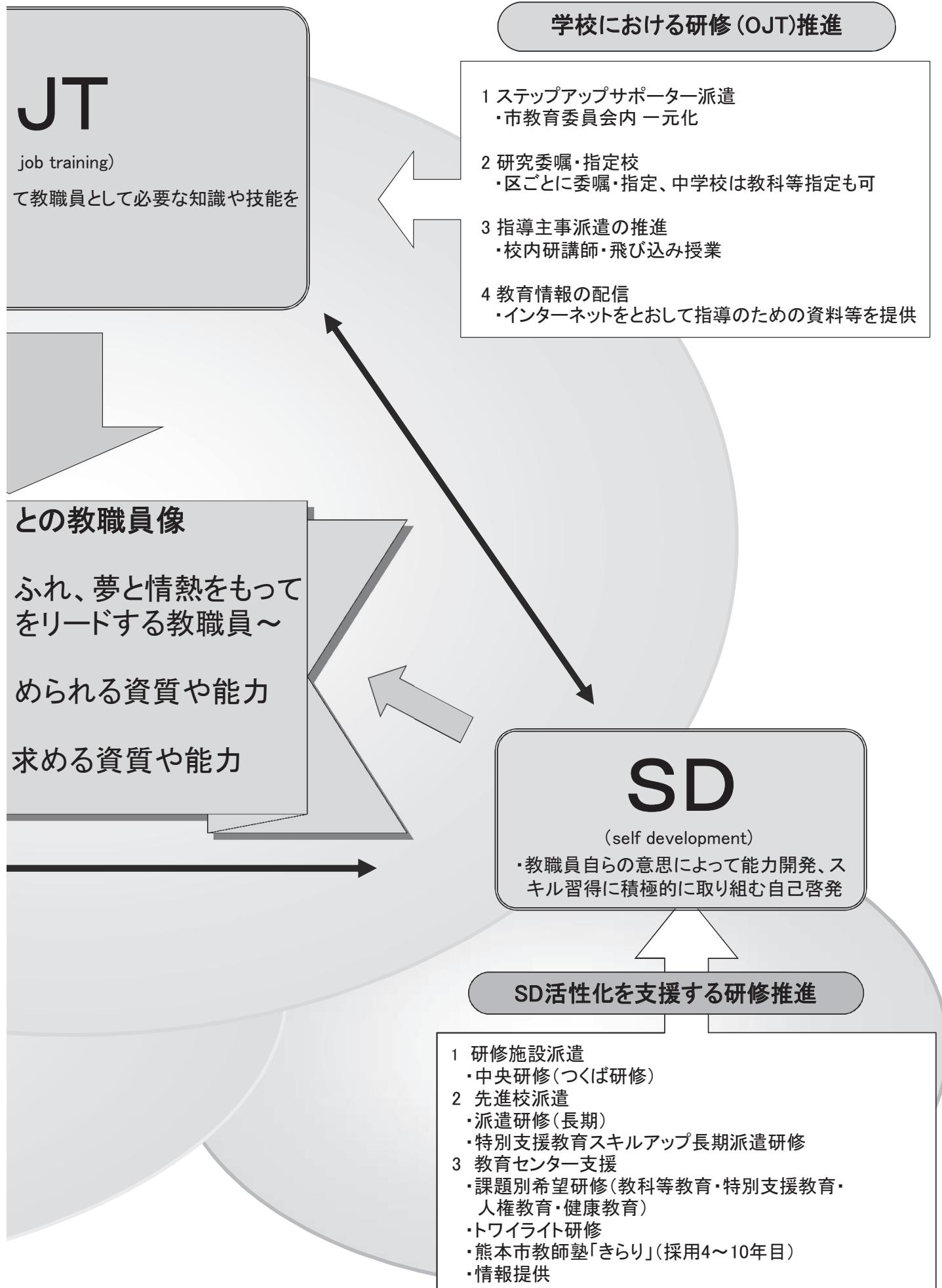
教育都市くまも

～人間的な魅力にあ
「くまもとの人づくり」

1 いつの時代も求

2 今、時代が特に





■ 授業力向上支援員（ステップアップサポーター）派遣事業

授業力の優れた退職教員（ステップアップサポーター）を、小・中学校に派遣し、授業に即して支援し、また、学校全体を支援し、校内研修の活性化、学校訪問の充実など、教職員の授業力向上を図っている。

| 年度 | 小学校 | | 中学校 | | 合計 | |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| | 派遣学校数 | 研修者実数 | 派遣学校数 | 研修者実数 | 派遣学校数 | 研修者実数 |
| H20 | 40校 | 199人 | 20校 | 74人 | 60校 | 273人 |
| H21 | 61校 | 206人 | 25校 | 84人 | 86校 | 290人 |
| H22 | 76校 | 211人 | 32校 | 148人 | 108校 | 359人 |
| H23 | 68校 | 194人 | 28校 | 98人 | 96校 | 292人 |
| H24 | 63校 | 149人 | 35校 | 105人 | 98校 | 254人 |

■ 校（園）内研修

各学校や園においては、学校教育目標の達成のために、実態に応じて研究主題を設定し、組織的・計画的に研修を行い、各教科等の授業における「指導力の向上」及び子どもの理解や学級経営等につながる「教師としての資質や能力の向上」を図っている。

平成24年度 1校（園）あたりの平均実施状況

幼稚園 46.6回 小学校 28.2回 中学校 24.5回

■ 社会体験研修

教職員の社会性を培うとともに、広い視野で学校を見つめ直し、子どもたちの「生きる力」を育む教育活動に生かすことを目的に、平成12年度から平成17年度まで小中学校の「初任者研修」の中で6日間、「13年目研修」の中で5日間、教職員の社会体験研修を実施した。平成18年度からは、「初任者研修」において、3日間の研修を位置づけている。

また、平成14年度より平成22年度まで、校長以外の全教職員を対象に、夏季休業期間中に3日間以上の異業種を体験する「短期社会体験研修」を実施した。

【短期社会体験研修の研修先】

製造・販売：パン・菓子店、醤油製造、デパート、書店、スーパー、ガソリンスタンド等

福祉・病院：介護老人保健施設、在宅介護支援センター、各種病院等

その他：畜産農家、営農センター、園芸農家、ホテル、飲食店、レストラン、新聞社、放送局、美容院、理容店、消防署、保育園等

| 研修区分 | 17年度 | 18年度 | 19年度 | 20年度 | 21年度 | 22年度 |
|---------------|------|------|------|------|------|------|
| 初任者研修（6日間） | 36人 | — | — | — | — | — |
| 初任者研修（3日間） | — | 32人 | 28人 | 28人 | 24人 | 34人 |
| 13年目研修（5日間） | 71人 | — | — | — | — | — |
| 短期研修（3日） | 242人 | 194人 | 175人 | 190人 | 186人 | 274人 |
| 高校短期研修（3日～5日） | 5人 | 3人 | 6人 | 5人 | 7人 | 5人 |
| 高校長期研修（半年） | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 | 2人 |
| 計 | 356人 | 231人 | 211人 | 225人 | 219人 | 315人 |

■ 教師塾「きらり」

○ 事業の目的

教師の授業力向上と「学び続ける教員」としての資質を育成することを目的にして、平成24年度から開講された。採用4年目から10年目までの小中学校教諭を対象とした希望研修であり、塾生は1年間の研修を受ける。塾生は、経験豊かで優れた授業力をもつ師範による「指導授業」や全国的に著名な実践家による「講師招聘授業」を参観する。また、研究授業を公開したり、実技講座を受講したりする。それらの活動をとおして授業の実践的指導力やそれを支える理論を学ぶ。

平成25年度は、塾生OBOGによる講座と研究発表会を開催し、教師塾修了生が自主的に学びあい、自らの実践を報告する場を設ける。

○ 平成24年度の実績（塾生38人）

| | |
|---------|------|
| 講師招聘授業 | 2回 |
| 師範の指導授業 | 41回 |
| 塾生の研究授業 | 117回 |
| 実技講座 | 9回 |

○ 平成25年度の事業（塾生30人）

| | |
|---------|-----|
| 講師招聘授業 | 2回 |
| 師範の指導授業 | 26回 |
| 塾生の研究授業 | 75回 |
| 実技講座 | 13回 |
| OBOG講座 | 7回 |

■ 授業研究の充実《学びわくわく小中学校授業研究会》

各教科等及び特別支援教育の専門的知識を深めるとともに、教育課程及び学習指導法等について研究協議を深め、教職員の指導力の向上を図る目的で、授業研究会の充実に努めている。

「授業研究会の日」を、6月・10月・2月に実施し、このうち一斉開催を中学校は10月、小学校は2月に実施する。

| 研究会名 | 授業研究会実施回数 | | | | |
|---------------------|-----------|------|------|------|------|
| | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度 |
| 熊本市小学校国語教育研究会 | 9 | 7 | 9 | 7 | 9 |
| 熊本市小学校書写教育研究会 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 熊本市小学校社会科教育研究会 | 5 | 5 | 5 | 5 | 6 |
| 熊本市小学校算数教育研究会 | 7 | 3 | 5 | 5 | 5 |
| 熊本市小学校理科教育研究会 | 4 | 4 | 4 | 3 | 4 |
| 熊本市小学校生活科・総合的な学習研究会 | 6 | 9 | 6 | 7 | 3 |
| 熊本市小学校音楽教育研究会 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 |
| 熊本市小学校家庭科教育研究会 | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 |
| 熊本市小学校体育研究会 | 6 | 7 | 6 | 5 | 7 |
| 熊本市小学校道徳教育研究会 | 5 | 5 | 3 | 4 | 4 |
| 熊本市小学校特別活動研究会 | 6 | 4 | 4 | 5 | 5 |
| 熊本市小学校外国語活動研究会 | | | 3 | 4 | 4 |
| 小学校計 | 58 | 53 | 55 | 55 | 56 |

| | | | | | | | |
|-------------|--------------------|---|----|----|----|-----|--|
| 中 学 校 | 熊本市中学校国語教育研究会 | 3 | 3 | 4 | 4 | 4 | |
| | 熊本市中学校社会科教育研究会 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | |
| | 熊本市中学校数学教育研究会 | 3 | 3 | 3 | 5 | 5 | |
| | 熊本市中学校理科教育研究会 | 5 | 5 | 4 | 4 | 5 | |
| | 熊本市中学校音楽教育研究会 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 熊本市中学校体育研究会 | 5 | 3 | 5 | 5 | 5 | |
| | 熊本市中学校技術・家庭科教育研究会 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | |
| | 熊本市中学校英語教育研究会 | 4 | 4 | 5 | 5 | 4 | |
| | 熊本市中学校道徳教育研究会 | 1 | ※ | 1 | ※ | 1 | |
| | 熊本市中学校特別活動研究会 | 0 | ※ | 0 | ※ | 0 | |
| 中学校計 | | | 27 | 24 | 28 | 29 | |
| 合 同 | 熊本市小中学校図画工作美術教育研究会 | 小 | 4 | 3 | 4 | 4 | |
| | | 中 | 1 | 1 | 1 | 1 | |
| | 熊本市特別支援教育研究会 | 小 | 5 | 5 | 6 | 5 | |
| | | 中 | 1 | 1 | 1 | 4 | |
| 総 計 | | | 96 | 87 | 95 | 98 | |
| | | | | | | 100 | |

※中学校の「道徳」「特別活動」については、教育委員会主催の授業研究会を行った。

■ 学校教育アドバイザー事業

平成15年度から、熊本大学教育学部の協力により、教授、准教授等をアドバイザーとして市立の小学校、中学校、高等学校及び幼稚園に招聘する。専門分野からの指導助言を得ることにより、校内研修会や教科等教育研究会の充実を図り、教職員の指導力向上に資する。

平成24年度

各校（園）種における実施回数

幼稚園 5回 小学校 37回 中学校 15回 計57回

教育等研究会における実施回数

小学校 3回 中学校 25回 計28回 総計85回

■ 研究委嘱校（園）、研究指定校

子どものたちの学力充実を図るとともに、教職員の指導力向上を図るために、課題について研究を委嘱し、成果を発表する。

○ 平成24・25年度熊本市教育委員会研究委嘱校（園）・研究指定校一覧

| 学校（園）名 | 研究領域 研究発表会期日 | 研究 主 题 等 |
|--------|-------------------|---|
| 一新小学校 | 教育課程 10月8日（火） | 学びを実感できる授業をめざして ～協同的な学び合いを通して～ |
| 大江小学校 | 教育課程 10月11日（金） | 一人一人の子どもが豊かな心をもち、 自信をもって生き生きと活動する学習の創造 ～道徳の時間と特別活動との響きあう道徳教育の充実を目指して～ |
| 出水中学校 | 学力充実 10月18日（金） | 子どもの学びを支援する組織的な指導の研究 ～生徒が主体的に学び、思考力や表現力が高まる指導の工夫～ |
| 日吉東小学校 | 教育課程 10月23日（水） | 自信をもって表現し、共に学び合う子どもの育成 ～「伝え合う力」をはぐくむ学習づくりを通して～ |

◆第二章 教育目標達成への取り組み～第2節 生きる力をはぐくむ学校教育の推進～

| | | |
|--------|-----------------------------|--|
| 尾ノ上小学校 | 学力充実 10月25日(金) | 伝え合う力を高める教育活動の創造 ～言葉と心が響き合う学習づくり～ |
| 楠幼稚園 | 教育課程 10月30日(水) | 豊かな表現力の育成 ～幼児が自己表現の喜びを味わうための教師のかかわり～ |
| 五霊中学校 | 学力充実 11月15日(金) | かかわり合いを通して思考力・判断力・表現力を高める学びの創造 |
| 三和中学校 | 教育課程 11月20日(水) | 自らを律し、自らの将来を切り拓く生徒の育成 ～キャリア教育の実践を通して～ |
| 託麻北小学校 | 学力充実 教育の情報化 11月20日(水) | メディアを活用した豊かな表現力の育成 ～効果的なＩＣＴの活用による学び合いの場の設定を通して～ |
| 白山小学校 | 健康教育 11月27日(水) | 一人一人の教育的ニーズに応じた授業の創造 ～わかる・できるよろこびと「学ぶ楽しさ」を実感できる授業の探求～ |
| 植木小学校 | 教育課程 11月29日(金) | 自分の考えを表現し、ともに高め合うことのできる子どもの育成をめざして ～算数科・生活単元学習の授業づくりを通して～ |
| 城西小学校 | 教育課程 12月6日(金) | どの子も「分かる」「できる」ユニバーサルデザインの授業の創造 ～特別支援教育の視点・手法を生かして～ |

○ 平成25・26年度熊本市教育委員会研究委嘱校（園）・研究指定校一覧

| | | |
|----------|---------------|---------------|
| 研究委嘱校（園） | 熊本五福幼稚園（教育課程） | 田原小学校（教育課程） |
| | 画図小学校（教育課程） | 西山中学校（教育課程） |
| | 池上小学校（教育課程） | 出水南中学校（教育課程） |
| | 出水南小学校（教育課程） | |
| 研究指定校 | 月出小学校（学力充実） | 江南中学校（学力充実） |
| | 城南小学校（学力充実） | 城北小学校（特別支援教育） |
| | 川尻小学校（学力充実） | 鹿南中学校（生徒指導） |

(6) 小中一貫教育

富合小学校と富合中学校は、平成16年度から、小中一貫教育の特区認定を受け、小中学校間のスムーズな移行を図るとともに、子どもたちの発達段階や個性に応じた特色ある教育活動を推進している。

平成20年度からの構造改革特別区域研究開発学校設置事業の全国展開に伴い、文部科学省へ教育課程特例指定変更申請を行い、教育課程特例校としての承認を受けた。

その取組を積極的に公開するとともに、小中一貫教育検証検討委員会の議論も踏まえ、小中一貫教育の成果の検証と改善を積み重ねているところである。

(7) 高等学校及び専門学校の活性化の推進

本市は、普通科と普通科3コースを有する熊本市立必由館高等学校（全日制高等学校）、普通科2コースと情報科2コースを有する熊本市立千原台高等学校（全日制高等学校）、そして熊本市立総合ビジネス専門学校（商業系専門学校）を設置している。

社会の進展に対応し、生徒のニーズに応じた多様な教育及び特色ある学校づくりを推進するために、魅力あるカリキュラムの編成と教育内容の充実に努めるとともに、教職員研修の充実を図る。

■ 熊本市立必由館高等学校



○ 生徒数（平成25年5月1日現在）

| | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
|--------------|-----|-----|-----|------|
| 普通 通 科 | 241 | 238 | 234 | 713 |
| 普通科 国際コース | 40 | 39 | 41 | 120 |
| 普通科 芸術コース | 40 | 41 | 40 | 121 |
| 普通科服飾デザインコース | 40 | 39 | 39 | 118 |
| 計 | 361 | 357 | 354 | 1072 |

○ 沿革

明治44年 4月 熊本市立実科高等女学校として開校 修業年限2ヵ年
大正11年 4月 熊本市立高等女学校と校名変更 修業年限4ヵ年とする
昭和6年 2月 現在地に校舎新築移転
昭和23年 4月 熊本市立女子高等学校と校名変更 普通科、被服科併設の総合高校となる
昭和24年 4月 熊本市立高等学校と校名変更、男女共学となる
昭和32年 4月 商業科設置
昭和34年 4月 商業科が熊本市立商業高等学校として独立する
昭和42年11月 創立55周年並びに校舎落成記念式典を挙行
昭和48年 4月 男子生徒106名が15年ぶりに入学する
平成13年 4月 熊本市立必由館高等学校へ校名変更
被服科廃止、校名披露・創立90周年記念式典挙行
平成19年10月 新校舎落成記念式典を挙行
平成23年11月 創立100周年記念式典を挙行

○ 教育目標

校訓「至誠・進取・和敬」のもと、気品と節度ある態度を養い、正しい判断力と実践力を身に付けた、社会に貢献できる心豊かな生徒の育成を目指している。

平成13年度から普通科国際コース、芸術コース、服飾デザインコースを設置して、生徒の適正や能力を生かした教育を実践し、一人一人の生徒の進路目標の達成を目指して、学力充実に努めている。

○ 各コースの主な活動・実績（平成24年度）

国際コース

- ・ 6月 平成23年度サンアントニオ市派遣留学生、2名帰国
- ・ 7月 国際コース1、2年生国際理解講演会
「地雷廃絶と被害者支援の会熊本」代表 最相博子氏を講師に迎えて開催
- ・ 7月 平成24年度熊本市・サンアントニオ市交換留学生事業合同説明会
- ・ 8月 熊本市・桂林市高校生交流事業団員受け入れ
- ・ 8月 平成24年度サンアントニオ市派遣留学生出発（平成25年5月末まで）

- ・2～3月 平成25年度サンアントニオ市派遣留学生選考

※ 英語検定準備・実施 6月、10月、1月

芸術コース（音楽系）一部抜粋

- ・6月 第37回公開テスト
- ・7月 第37回熊本県高等学校器楽コンクール 弦楽器部門（金賞1名、銀賞1名）
- ・8月 中学生の体験入学
- ・8月 第27回八代青少年音楽コンクール ピアノ部門（金賞1名、銀賞1名、銅賞1名）
弦楽部門（金賞1名）
- ・8月 第29回熊本県高等学校ピアノコンクール（銀賞2名、銅賞1名）
- ・8月 第38回熊本県高等学校独唱コンクール（金賞3名、銀賞2名、銅賞1名）
- ・8月 第23回熊本県高等学校管・打楽器独奏コンクール
木管部門（銀賞1名） 金管部門（金賞1名、銀賞2名）
- ・10月 第66回全日本学生音楽コンクール 北九州地区本選 声楽部門 3位1名
- ・10月 第36回全九州高等学校音楽コンクール 声楽部門 銀賞1名
- ・11月 第38回公開テスト
- ・11月 第65回犬童球溪顕彰音楽祭個人コンクール ピアノ部門1位（球溪賞）1名
- ・12月 第45回熊日学生音楽コンクール
ピアノ部門（優良賞1名） 独唱部門（最優秀賞（大賞）1名、優良賞1名）
- ・1月 第8回JBAソロコンテスト 木管部門 銀賞1名、金管部門 銀賞1名
- ・2月 第39回公開テスト

芸術コース（美術系）一部抜粋

- ・7月 九州高文連美書写 福岡大会 県代表として1名参加
- ・8月 全国高等学校総合文化祭 富山大会 県代表として1名参加
- ・第75回銀光展 くまもと県民テレビ賞1名、他入賞入選多数
- ・第16回熊本県高等学校写生大会 特選11名 準特選10名、入選5名
- ・第67回熊本県美術協会展 彫刻部門 奨励賞1名、他入選多数
- ・第37回熊本県高等学校美術展 最優秀賞1名（全国大会へ）、
優秀賞7名（2名が九州大会へ）、優良賞1名
- ・第48回熊本県水彩画会展 県水彩画会賞（大賞）1名、県教育委員会賞1名、入選1名
- ・第36回九州青年美術展 朝日新聞社賞1名 他入賞入選多数
- ・第56回西日本読書感想画コンクール 佳作5名、入選2名
- ・第19回日本高校生デザイングランプリ 浅葉克己賞（準大賞）1名、他入賞4名
入選・佳作多数、必由館は優秀学校賞
- ・第25回熊本県高等学校総合文化祭ポスター図案コンクール
最優秀賞 2名（ポスター、パンフレット採用）、佳作10名入選2名
- ・第5回熊本県高等学校総合体育大会ポスター図案コンクール 佳作2名

芸術コース（書道系）一部抜粋

- ・熊本県高等学校揮毫大会において、9年連続団体優勝
- ・文部科学省後援書写検定合格者 毛筆・硬筆2級18名
- ・第31回熊日新銳書道展 熊日新銳賞1名
- ・第17回全日本高校大学書道展 書道展賞1名、優秀賞4名
- ・第18回九州高文連揮毫大会 第三席1名
- ・第61回七夕展 日本の書道会賞 1名
- ・第39回学生学童書道展 最高賞、他各放送局賞多数
- ・第53回熊日書道展 入選4名
- ・第61回日本の書道展 熊本県書道教育会賞1名、熊日賞1名、推薦3名
- ・第48回熊本県高等学校書道展 最優秀賞1名、優秀賞1名、奨励賞1名
- ・第34回読売学生書展 熊本県賞1名 熊本市賞1名 名護市賞1名

服飾デザインコース 一部抜粋

- ・5月～7月 マナー検定に向けての特別講義
- ・6月 社会見学研修 中村歌昇改め三代目中村又五郎襲名披露「六月博多座大歌舞伎」
- ・6月 涼しいゆかたと来民うちわ展出展
- ・7月 中学生体験入学実施（中学生142名が参加）
- ・6月～8月 集中講義
- ・8月 第67回県美展（工芸） 課題研究染色 努力賞1名、入選4名
- ・9月 第25回交通安全県民大会「おしゃれに身を守ろう作戦！！」
反射材研究発表・ファッションショー実施
- ・9月 文化祭展示・ファッションショー発表
- ・10月 洋食テーブルマナー研修
- ・10月～11月 第34回熊本県・市中学校技術・家庭科展出品展示 約70点を展示
- ・11月～12月 染色特別講義
- ・12月 コース特別講義 「日本舞踊にまつわる風俗の歴史について」
- ・1月 コース発表会（第11回） 鶴屋ホール

生徒実行委員を中心に1年間の学習の成果をファッションショー及び展示により発表した。これまでの歴史と伝統を継承しつつ、高齢者の交通安全推進に向けた衣装デザインなど、新たな挑戦にも取り組んだ。服飾デザインコースの生徒としての自覚とともに3学年の連携と団結を密にするよい機会となった。

○ 進路状況（現役のみ）

| 進路先 卒業年度 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 国 公 立 大 学 等 | 26 | 43 | 35 | 35 | 55 |
| 私 立 大 学 等 | 150 | 136 | 134 | 153 | 154 |
| 短 期 大 学 | 23 | 28 | 29 | 29 | 24 |
| 高 等 看 護 学 校 | 9 | 10 | 11 | 8 | 19 |
| 専 修 各 種 学 校 | 79 | 98 | 84 | 79 | 52 |
| 進 学 計 | 287 | 315 | 293 | 304 | 304 |
| 就 職 | 14 | 17 | 14 | 20 | 10 |
| そ の 他 未 定 | 40 | 21 | 24 | 21 | 30 |
| 合 計 | 341 | 353 | 331 | 345 | 344 |

○ 部活動

文化部：美術、演劇、書道、音楽、写真、JRC、放送、文芸、新聞、吹奏楽、箏曲、化学、茶道、煎茶道、和太鼓、和装文化、服飾デザイン、華道同好会

体育部：陸上、剣道、弓道、水泳、新体操、女子バレー、男女バスケットボール、男女ハンドボール、ソフトボール、テニス、ソフトテニス、バドミントン、サッカー、野球、卓球

○ 教職員研修（平成24年度実績）

- ・ 熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校人権教育研修会
- ・ 進路指導、生徒指導、環境教育担当者研修、10年経験者研修等については、熊本県教育委員会に依頼し、県立高等学校職員研修計画のもとで実施。

■ 熊本市立千原台高等学校



○ 生徒数（平成25年5月1日現在）

| | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
|---------------|-----|-----|-----|-----|
| 普通科 国際経済コース | 41 | 39 | 37 | 117 |
| 普通科 健康スポーツコース | 41 | 40 | 39 | 120 |
| 情報科 OA会計コース | 82 | 82 | 79 | 243 |
| 情報科 経営情報コース | 41 | 40 | 37 | 118 |
| 計 | 205 | 201 | 192 | 598 |

○ 沿革

昭和32年 4月 熊本市立高等学校に商業科設置

昭和34年 4月 熊本市立高等学校より商業科が分離独立 熊本市立商業高等学校となる
通学区は熊本市内

昭和39年 4月 現在地に校舎新築移転
昭和43年11月 創立10周年並びに校舎、体育館落成記念式典を挙行
昭和46年 4月 通学区が県下全域となる
昭和49年 4月 男女共学実施 女子50名が入学
昭和63年 4月 情報処理科新設
平成12年 4月 熊本市立千原台高等学校に校名変更
普通科国際経済コース及び健康スポーツコース新設、商業科等を情報科へ改編
平成14年 5月 体育館落成
平成19年11月 創立50周年記念式典を挙行

○ 教育目標

- 1 心豊かな人間性や社会性を持ち、国際的な視野に立って健全な社会の発展に寄与することのできる人材を育成する。
- 2 自主的・自発的精神を持ち、自らの課題に積極的に取り組み、問題解決を図っていくことのできる人間を育成する。
- 3 社会生活に必要な基礎的知識や技術及び適正な判断力と実践力を身に付け、責任感と協調性に富む人物を育成する。

○ 各コースの主な活動・実績（平成24年度）

健康スポーツコース

- ・体育理論・健康科学（スポーツに関する科学的な知識やトレーニング方法について学び、実践に活かす）
- ・スポーツI・II（部活動と連動させた競技力向上のための取り組み）

国際経済コース

- ・実用英語検定合格者 準2級11名、3級27名
- ・第29回全国商業高等学校スピーチコンテスト熊本県予選
レシテーションの部 1年生1名出場
- ・第25回熊本県高等学校英語暗唱大会 1年生第1位、2年生1名出場
- ・サンアントニオ市との交換留学 セント・アンソニー高校へ 2年生1名
- ・桂林市友好訪問団受け入れ 1年生2名
- ・ハイデルベルク市派遣 3年生1名

OA会計コース

- ・外部講師招聘授業（日商簿記検定試験対策）
- ・土曜講座（日商簿記検定試験対策）
- ・大原簿記専門学校福岡校との連携（福岡での講習会参加）

経営情報コース

- ・外部講師招聘授業（ITパスポート試験対策）

- ・土曜講座（ITパスポート試験対策）
- ・情報処理検定対策学習合宿（年2回実施）
- ・福岡情報専門学校との連携（福岡での講習会参加）

○ 進路状況（現役のみ）

| 進路先 卒業年 | 20年 | 21年 | 22年 | 23年 | 24年 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 国 公 立 大 学 等 | 3 | 0 | 2 | 0 | 1 |
| 私 立 大 学 等 | 45 | 53 | 46 | 45 | 51 |
| 短 期 大 学 | 4 | 8 | 7 | 6 | 5 |
| 高 等 看 護 学 校 | 3 | 2 | 5 | 6 | 4 |
| 専 修 各 種 学 校 | 58 | 66 | 66 | 73 | 67 |
| 進 學 計 | 113 | 129 | 126 | 130 | 128 |
| 就 職 | 50 | 36 | 44 | 43 | 50 |
| そ の 他 未 定 | 23 | 20 | 14 | 8 | 14 |
| 合 計 | 186 | 185 | 184 | 181 | 192 |

○ 部活動

文化部：英会話、ワープロ、パソコン、ライフサイエンス、ボランティア、簿記会計、吹奏楽、書道同好会、

体育部：ハンドボール、女子バレー、バスケットボール、サッカー、陸上、バドミントン、野球、柔道、卓球、自転車競技、柔道同好会、剣道同好会、弓道同好会、水泳愛好会

部活動の主な実績（平成24年度）

ハンドボール部

平成24年度全国高校ハンドボール選抜大会熊本県予選 優勝

平成24年度全国高校ハンドボール選抜大会九州地区予選 第5位（代表権獲得）

平成24年度全国高校ハンドボール選抜大会 ベスト16

平成24年度全九州高校ハンドボール競技大会 準優勝

陸上競技部

平成24年度熊本県高校総体

男子1500m 4位、男子5000m 3位・4位・5位

男子3000m障害 優勝・2位

男子5000mW 4位

女子3000m 優勝・4位

平成24年度南九州地区大会

男子1500m 4位、男子3000m障害 2位

平成24年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会

男子1500m出場、男子3000m障害出場

平成24年度熊本県高校女子駅伝 優勝

平成24年度熊本県高校男子駅伝 3位

平成24年全国高校女子駅伝大会出場

自転車競技部

平成24年度全国高等学校選抜自転車競技大会

ポイントレース 4位

平成24年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会

6/7種目出場

平成24年度全九州高等学校体育大会自転車競技大会

ポイントレース 5位、ケイリン 6位、4km速度競走 6位、スクラッチレース 5位

ロードレース 4位、団体追抜競走 7位、チームスプリント 8位

平成24年度熊本県高等学校総合体育大会自転車競技大会

学校対抗準優勝、ロードレース 優勝

野球部

NHK旗高等学校野球大会 ベスト4

吹奏楽部

第56回熊本県吹奏楽部コンクール 高等学校Bパート 金賞

第3回定期演奏会実施 3月 本校体育館

ボランティア部

第20回アフリカこどもの日 in Kumamoto 実行委員、赤い羽根共同募金活動、熊本国際交流祭典

第16回ボランティア・スピリット、感謝状受賞

城西小正門前挨拶運動（平成21年11月より月1回実施）

島崎サマーフェスティバル実行委員、島崎三賢堂清掃

ユニセフハンド・イン・ハンド（全国一斉年末募金活動）

白羊保育園ふれあいボランティア（平成21年11月より、毎週水曜日と金曜日の放課後に実施）

ネパールへの書き損じはがき贈呈式（平成24年3月21日 千原台高校で実施）

○ 平成24年度情報科の上級資格取得者数（）は前年人数

経済産業省 情報処理技術者試験（ITパスポート）3（10）人

日本商工会議所簿記検定試験 2級 36（27）人

日本商工会議所簿記検定試験 3級 48（101）人

全国商業高等学校協会主催情報処理検定試験 1級 17（22）人

○ 教職員の研修（平成24年度実績）

・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校人権教育研修会

・教務主任、進路指導、生徒指導、環境教育担当者研修、10年経験者研修等については、熊本県教育委員会に依頼し、県立高等学校職員研修計画のもとで実施。

■ 熊本市立総合ビジネス専門学校



○ 生徒数（平成25年5月1日）

| | 1年 | 2年 | 計 |
|---------|----|----|-----|
| 総合ビジネス科 | 71 | 67 | 138 |
| OA経理科 | 12 | | 12 |
| 計 | 83 | 67 | 150 |

○ 沿革

昭和24年 4月 熊本市立商業実務員養成所創設
 昭和30年 4月 各種学校として認可
 昭和31年 3月 熊本市宮内町に移転
 昭和34年 4月 熊本市立実務商業学校と改称
 昭和50年 4月 昼間部の学級編成を変更
 昭和54年 4月 専修学校認可 熊本市立実務商業専門学校と改称
 平成 3年 4月 総合ビジネス科（高卒2年制の専門課程）を設置し、現校舎に移転
 　　開校と同時に熊本市立総合ビジネス専門学校と改称
 平成 7年 1月 総合ビジネス科卒業生に「専門士」（商業実務専門課程）の称号の付与認可
 平成 9年 7月 公開講座開始（ワープロ・パソコン）
 平成11年11月 創立50周年記念式典
 平成12年 4月 経理科廃止
 平成19年 4月 【総合ビジネス科（昼間）】経理ビジネスコース、経理情報コース、観光サービスコース、【OA経理科（夜間）】と改編
 平成21年11月 創立60周年同窓会祝賀会

○ 教育目標

① 総合ビジネス科（修業期間 2年）

- ・経理ビジネスコース：高度の簿記会計科目を中心に学び、経理・総務・営業事務等を担当するための幅広く、高度なビジネス実務能力をもった人材を育成する。
- ・経理情報コース：簿記やビジネス実務とともに、高度なパソコン利用技術を学び、広いビジネス実務に適応できる事務処理能力をもった人材を育成する。
- ・観光・サービスコース：ホテル、旅行業などの科目に実習も取り入れ、観光・サービス業に関する事務能力を高め、コンベンション都市を支える人材を育成する。

② OA経理科（修業期間 1年 夜間）

一般社会人を対象として、簿記会計、パソコン、ワープロ、電卓等の知識・技能を養う。

○ 教職員の研修（平成24年度実績）

- ・熊本市立高等学校・総合ビジネス専門学校人権教育研修会

○ 進路状況（卒業年度の3月末現在）

ア 卒業生数

| 卒業年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総合ビジネス科 | 65 | 69 | 66 | 67 | 58 |
| OA経理科 | 18 | 20 | 9 | 5 | 10 |

イ 業種別進路

| 卒業年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 建設業 | 1 | 0 | 3 | 3 | 2 |
| 製造業 | 4 | 5 | 8 | 1 | 17 |
| 運輸・通信業 | 4 | 5 | 8 | 3 | 3 |
| 卸売・小売業 | 11 | 14 | 5 | 12 | 8 |
| 金融・保険業 | 2 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| サービス業 | 27 | 19 | 25 | 24 | 23 |
| その他 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| 小計 | 49 | 47 | 51 | 44 | 53 |
| 未定 | 14 | 15 | 11 | 18 | 1 |
| 自己就職・進学他 | 2 | 7 | 4 | 5 | 4 |
| 合計 | 65 | 69 | 66 | 67 | 58 |

ウ 職種別進路（未定・自己就職・進学他を除く）

| 卒業年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|-------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 事務 | 35 | 39 | 39 | 33 | 39 |
| 営業・販売 | 6 | 3 | 4 | 2 | 5 |
| 技能 | 0 | 0 | 3 | 0 | 1 |
| サービス | 8 | 5 | 5 | 8 | 7 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| 合計 | 49 | 47 | 51 | 44 | 53 |

エ 就職内定率(%) (3月31日現在)

| 卒業年度 | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|---------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 総合ビジネス科 | 77.8 | 75.8 | 81.0 | 71.0 | 98.1 |

(3月末現在のデータであるが、年度を越えても就職支援を行い、各年度ほぼ90%を超える。)

○ 最近の主な就職先一覧（過去5年間）

| | |
|--------|---|
| 建設業 | エース産業、大津建設工業、皆楽園、木村建設、光進建設、松栄パナホーム熊本、多田産業 |
| 製造業 | 阿蘇中央生コンクリート、上村エンタープライズ、オジックテクノロジーズ、オムロンリーダンデバイス、九州ショーワ、清永木工所、熊本製粉、熊本ユシ工業、三栄工業、塩山食品、昭和印刷、シンエイ産業、ソリューション、ダルマックス、南星機械、西日本鉄工、ハーネス・イシハラ、バド・プレスト、フュージョン、 |
| 運輸・通信業 | 九州産交ツーリズム、近鉄航空配送、熊本製粉ロジスティクス、熊本電鉄、サンワールド九州、JR九州、JTB九州熊本支店、旅のよろこび、トラベルミュー、ネットトヨタ中九州、農協観光、フクワ物流、フレンドシップツアーア、ベストロジ熊本、矢部観光、山一観光、旅行総研、ロータス観光 |
| 卸売・小売業 | エーコープ熊本、えがお、エッセンハウス、大木商店、岸工業九州、餃子屋式ノ式、清田時計店、ケイワード九州、ケーズホールディングス、後藤駒、ジョイフル、新生堂、西紅ハローグリーン、善徳丸建材、堤化学、嶺本薬局、ドラッグストアコスモ21、南国殖産、西日本電材、ノバラ、ハウディ、橋本屋、古莊本店、マイティ・スパロウ、Misumi、メディカル商会 |
| 金融・保険業 | くまもと共済、西日本チケット |
| サービス業 | アートプロセス、アートワーク、愛誠会コスモス・ファミリー、アズマシティ開発、アドルーム、天草慈恵病院、天草地域医療センター、荒尾市清掃公社、アンクル、出水幼稚園、インプラントセンター九州歯科診療所、エコポート九州、NTTドコモ九州熊本支店、エムシービー、奥の湯（黒川温泉）、尾場瀬税理士事務所、帯山中央病院、加藤神社、カネヨシ商事、鹿本郡市医師会、狩場医院、カローラ熊本ライフビジネス、菊池観光ホテル、キャステイングアイ、協同プランニング、くまもとエミナース、熊本計算センター、熊本全日空ホテルニュースカイ、熊本ホテルキャッスル、コクピットエフワン、JA阿蘇、JAかみましき、JA鹿本、JA熊本うき、JA熊本市、JTBグローバルアシスタンス、柴田内科外科病院、城の湯、真光会三和荘、セントラルホテル八代、大劇、第2さくら体育幼稚園、竹野税理士事務所、千歳会計社、ちとせ眼科、T・H・C、デルタゾシエーション、常盤学園、トヨタレンタリース熊本、中原歯科クリニック、中村哲也税理士事務所、ナトーコンピュータ、にのみや歯科医院、パインシステム、ハウステンボス、原田税理士事務所、東税務会計事務所、ひらの歯科医院、ひらやま整形外科クリニック、ファーレスピーチコーポレーション、ホテルヴェルデ、ホテル日航熊本、ホテルニューオータニ熊本、ホワイト歯科、牧野皮膚科医院、マツオカ法律事務所、マネジメントサポート、美里町商工会三森循環器科呼吸器科病院、むらかみ眼科、矢部ゴルフ、ヤマイ、山内ユリ子税理士事務所、山鹿中央病院、ユース会計社、優彩（黒川温泉）、ゆうしん、湯前木材事業協同組合、レオパレス21、レ・デ・モ |
| 公務その他 | 氷川土地改良区 |

○年度別検定試験等取得数（該当年度の取得者の数字であり、既取得者は含まれていない）※OA経理科を含む

| 主催者及び検定試験名等 | レベル | 平成20年度 | 平成21年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 |
|---|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 日本商工会議所主催 簿記検定試験 | 1級 | 1 | — | — | — | — |
| | 2級 | 34 | 19 | 28 | 46 | 31 |
| | 3級 | 66 | 44 | 40 | 50 | 41 |
| 日本商工会議所主催 日商P C 検定試験（データ活用） | 2級 | 5 | 2 | 2 | 2 | — |
| 全国経理教育協会主催 簿記能力検定試験 | 上級 | 1 | 1 | 1 | — | — |
| | 1級 | 24 | 20 | 26 | 25 | 16 |
| | 会計 | 24 | 20 | 26 | 25 | 16 |
| | 工簿 | 51 | 33 | 47 | 50 | 47 |
| | 2級 | 61 | 51 | 44 | 30 | 37 |
| | 3級 | 15 | 13 | 12 | 12 | 8 |
| 建設業振興基金主催 建設業経理士検定試験 | 1級財表 | 1 | — | — | — | — |
| | 1級原価 | 1 | — | — | — | — |
| | 2級 | 14 | 12 | 18 | 12 | 10 |
| 全国経理教育協会主催 税務会計能力検定試験 | 所得税1級 | — | — | — | 1 | — |
| | 所得税2級 | 25 | 25 | 18 | 17 | 22 |
| | 所得税3級 | 42 | 33 | 28 | — | 36 |
| | 法人税2級 | 2 | 4 | 11 | 18 | 2 |
| | 法人税3級 | 32 | 31 | 28 | — | 25 |
| | 消費税2級 | 3 | — | 3 | 6 | — |
| 全国旅行業協会主催 国内旅行業務取扱管理者試験 | 国家資格 | 7 | 11 | 5 | 10 | 6 |
| 日本旅行業協会主催 総合旅行業務取扱管理者試験 | 国家資格 | 5 | 1 | 3 | 1 | 2 |
| 中央職業能力開発協会主催 コンピュータサービス技能評価試験 ワープロ部門 | 1級 | 2 | 2 | 5 | 2 | — |
| | 2級 | 40 | 66 | 61 | 56 | 54 |
| | 3級 | 85 | 90 | 79 | 69 | 76 |
| 中央職業能力開発協会主催 コンピュータサービス技能評価試験 表計算部門 | 1級 | — | 1 | 1 | — | — |
| | 2級 | 54 | 27 | 61 | 57 | 58 |
| | 3級 | 86 | 88 | 78 | 70 | 77 |
| サーティファイ主催 Accessビジネスデータベース技能認定試験 | 1級 | 9 | 4 | 12 | 12 | 12 |
| | 2級 | 50 | 61 | 52 | 62 | 59 |
| | 3級 | 63 | 65 | 66 | 67 | 59 |
| サーティファイ主催 Illustratorクリエータ能力認定試験 | 3級 | 5 | 14 | 11 | 11 | — |
| | 3級 | 5 | 14 | 11 | 11 | — |
| 実務技能検定協会主催 秘書技能検定試験 | 準1級 | 1 | — | — | — | — |
| | 2級 | 29 | 85 | 24 | — | — |
| | 3級 | 64 | 1 | 1 | — | — |
| 実務技能検定協会主催 ビジネス文書技能検定試験 | 2級 | 54 | 55 | 50 | 52 | 30 |
| | 3級 | 70 | 63 | 65 | 53 | 64 |
| 実務技能検定協会主催 ビジネス実務マナー技能検定試験（平成22年度より） | 2級 | — | — | — | 43 | 35 |
| | 3級 | — | — | 57 | 55 | 56 |
| 日本英語検定協会主催 実用英語技能検定試験 | 2級 | 2 | — | 3 | 1 | 1 |
| | 準2級 | 7 | 6 | 5 | 9 | 7 |
| 全国語学ビジネス観光教育協会主催 観光英語検定試験 | 2級 | 2 | 2 | 1 | 2 | 5 |
| | 3級 | 21 | 19 | 10 | 19 | 9 |
| 国際ビジネスコミュニケーション協会主催 TOEIC IPテスト | 500点以上 | 1 | 2 | 1 | 2 | — |
| 日本電卓技能検定協会主催 電卓技能検定試験 | 四段 | — | — | 1 | — | — |
| | 三段 | 2 | — | 3 | 2 | 1 |
| | 初段 | 4 | — | — | 1 | 1 |
| | 1級 | 37 | 30 | 40 | 39 | 39 |
| | 2級 | 8 | 13 | 30 | 14 | 20 |
| | 3級 | 52 | 55 | 44 | 44 | 40 |
| 診療報酬算定能力審査会主催 医科医療事務検定試験 | 2級 | 3 | 3 | — | — | — |
| | 3級 | 22 | 19 | 31 | — | 14 |
| 日本ホテル・レストランサービス技能協会主催 レストランサービス技能検定試験 | 3級 | 1 | 12 | 5 | 3 | 7 |
| 情報処理推進機構主催 初級システムアドミニストレータ試験 | 国家資格 | 3 | 1 | — | — | — |
| 情報処理推進機構主催 ITパスポート試験（平成21年度より） | 国家資格 | — | — | 5 | 9 | 4 |